

## 原発事故＝人災の追打ち

### 「想定外」発言繰り返し 遂にメルトダウン(炉心溶融)

●福島第1原発事故は、多くの方が発信されているように、これは人災の追打ちです。安全神話をばら撒いてきた人達と東電幹部は、事故を目にして「想定外」発言を繰り返しましたが、キチンと責任を取るべきです。

●私自身、医療被曝ではありますが、放射線被曝者です。20年余に亘り、コバルト治療に携わってきました。15年余経過した頃から、強い乱視を自覚するようになり、24年ほど経過時＝退職後でしたが人工レンズにしました。相当進行した白内障。術後あり得ると言われていた、レーザー光による内側幕除去もしました。対向車のヘッドライトが

まるで線香花火様に視野に広がり、運転が危険で一旦停止せざるを得ないという経験もしました。

「一般人より被曝は多くても良い」と言う規定により、強い白内障も容認しなければならないのか？ 法体系そのものに疑問も感じます。人体で最も放射線感受性が高いのは目の水晶体です。私の場合は次は喉頭癌の可能性がります。そういう経験からも、今回の歴史的な事故に、発言をしたいです。

●電力会社は独占企業のため、法で「投資した額の8%を超えて儲けてはならない」との規制があり、投資額を増やせば8%の額も増えるので、経費の高くつく原発を推進して投資額を増やしたと言われていています。今回私たち素人にも判る事は、非常時の電源・ディーゼル発電機を、地下1Fに設置して耐震・防水対策も不十分、津波に耐えられるはずがないという事です。金儲けだけ考えて来たのか！と言いたくなります。

●今回の事故の中では、例えば①一旦避難した高齢者が、被曝を避ける為に、再移動をさせられた末、遂に亡くなっています。言葉もありません。

②睡眠も食事も不十分な状態で作業をさせられている原発現場の作業員。メーカーの日立・東芝からも子会社の労働者がメインのようですが派遣されています。冷却放水の任に当たる消防署員・自衛官など。彼らは国から放射線被曝上限を2.5倍に引き上げられ犠牲を強いられている労働者です。③ホウレンソウや原乳から自然界には無い放射性物質＝ヨウ素131とセシウム137などが検出され、出荷停止・摂取制限が出されています。今後、農畜産・漁業者の、精神面へのダメージをも併せて、被

害は計り知れません。

●放射性ヨウ素131は、食物摂取等により体内に入り、甲状腺に蓄積され内部被曝で特に子供の甲状腺癌が多発した事はチェルノブイリ事故で記憶に新しい事です。放射性セシウム137の半減期は約30年、土壌粒子と結合し易いため長期間地表から流されず、体内に取り込まれると筋肉に蓄積され、排出されるまでの100～200日間に亘ってガンマ線被曝が続きます。

●このように原発事故は、被災住民・労働者・人類への追打ち、犠牲の強要です。自然界にばらまかれた放射性物質は、食物連鎖の中で生体濃縮を繰り返し、プランクトン→魚→鳥→卵と進む中で、川の水に比較して100万倍にもなると言われます。生態系への影響は取り返しがつかない事になりかねません。

●又、今回の事故が発生する中、厚労省が「計画停電が実施される場合の労働基準法第26条の取り扱いについて」＝「休業手当支払に該当しない(旨)」の通達を出しました。企業の都合による停電であり、とんでもない通達だと思います。

今後は、素早い救援と生活全般の復興が渴望されていると共に、雇用問題をどう進めて行くのか大きな課題が横たわっています。

●生態系・人類を大切に思うなら、原発は廃止されなければならないと思います。太陽エネルギー、地球上のエネルギー、開発対象は多くあります。(K)



地震・津波・原発事故に被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。20日を過ぎようとする今も残念ながら状況は悪化の一途としか言えませんが、お互い助け合って前に進みましょう！！